

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	乳幼児親子教室		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日		2025年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22 (回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2025年 3月 15日		2025年 4月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間	2025年 3月 20日		2025年 4月 30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	19 (回答数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	対象児童が利用している療育機関の職員が同行することで、訪問先と療育機関で児童の状況や目標、支援方法などを共有でき、療育機関の心理や言語聴覚士など専門分野の職員の助言なども活用しながらカンファレンスを行っている。	事前に児童の状況などを療育機関の職員と打ち合わせをしてから訪問することで、訪問先と療育機関との違いも分かり、訪問先に合わせた支援方法などをお話しすることが出来ている。	
2	訪問員や療育機関職員が普段から保護者との関りがあり、児童の小さい頃の様子、成長過程や家族の様子等をよく知っている。	事前に療育での児童の様子を見学してから訪問している。日頃から保護者からの困りごとや悩みなども話していただけるような関係作りを大事にしている。	
3	訪問時に必ずカンファレンスの時間を設けていただき情報共有や意見交換をさせていただいていること、訪問後、時間をおかず保護者への報告を行うようにしている。	連絡時にカンファレンスの時間を設けていただくよう伝えている。時間的に厳しい場合は、オンラインや再度時間を設けていただいている。報告も書面だけでなく面談して様子を伝えるようにしている。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員が他事業と兼務のため、日程の調整がむずかしい。支援員の人数も少ないので、複数回の訪問がなかなかむずかしい。	希望者は増えているが、職員が足りない。	開始時期を早めて訪問回数を増やし足り、計画を立てて訪問の回数を確保する。 訪問支援員の増員を検討していく。
2	訪問後の話し合い、療育機関の職員との共有をしっかりとできると良かった。	定例の会議を確保する時間が持ちにくい。	訪問前だけではなく訪問後も会議などで報告をするなどして共有していきたい。